

平成30年度全国学力・学習状況調査 新潟市の結果

学校支援課

※ 数値は平均正答率

学年	教科	新潟市	全国（公立）	全国との差
小学校 6年	国語A	73.4%	70.7%	+2.7 p
	国語B	59.1%	54.7%	+4.4 p
	算数A	66.3%	63.5%	+2.8 p
	算数B	53.1%	51.5%	+1.6 p
	理科	62.0%	60.3%	+1.7 p
中学校 3年	国語A	76.4%	76.1%	+0.3 p
	国語B	62.7%	61.2%	+1.5 p
	数学A	67.6%	66.1%	+1.5 p
	数学B	48.8%	46.9%	+1.9 p
	理科	67.1%	66.1%	+1.0 p

※ 昨年度に引き続き、全数調査として実施された。

新潟市全体の結果は、小学校、中学校とも、全ての教科で全国の平均正答率（以下、全国平均）以上であった。全国平均との差は昨年度とほぼ同様に安定しているが、中学校国語Aが他の項目に比べると高くなかった。

また、今年度は3年ぶりに理科の調査が行われた。

各教科ごとの分析

【小学校国語について】

《問題ごとの状況 小学校国語A》

- ・・・全国平均よりも5ポイント以上上回った設問
- ▲・・・全国平均より低かった設問
- ⇒・・・授業改善の視点

○敬語を使う

(相手や場面に応じて適切に敬語を使う)・・・・・・・・・・・・・・・・・・ + 6. 3

○文の中で漢字を使う。「管」理 =試験「管」・・・・・・・・・・・・・・・・・・ + 5. 3

▲物語を読み、心に残ったことを説明する。

(登場人物の心情について、情景描写を基に捉える)・・・・・・・・・・・・・・・・・・ - 0. 5

<原因>登場人物の心情と情景描写を関連づけて捉えられていない。

⇒登場人物の相互関係や心情、場面についての描写を捉えながら読む。

→心に残った叙述を取り上げ、その叙述をどのように解釈したのか、自分の考えを明確にしながらかし合う等の学習を通し、作者や筆者の述べたい内容や要旨をとらえるなど、文章全体を読んだり、複数の本や文章などについて、様々な読み方を身に付けたりすることが必要である。

⇒物語を読み、叙述を基に理由を明確にして、自分の考えをまとめる。

→叙述を基に理由を明確にして、自分の考えをまとめる際、その叙述を見付けるためには、場面の展開に沿って、登場人物の言動や心情の変化を捉えて読む必要がある。そのためには、色や情景などの描写から受けるイメージを交流しあったり、複数の場面の叙述を相互に関係づけたりしながら読むことが大切である。

《問題ごとの状況 小学校国語B》

すべての設問で全国平均を上回った。

- ・・・全国平均よりも5ポイント以上上回った設問
- ▲・・・全国平均よりも高かったが、まだ課題のある設問
- ⇒・・・授業改善の視点

○伝記を読み、自分の考えをまとめる。

(目的に応じて、文章の内容を的確に押え、自分の考えを明確にしながらかしむ)

・・ + 10. 1

○献立を推薦する文章を書く。

(目的や意図に応じて、文章全体の構成の効果を考えることができる。)

・・ + 5. 0

▲言葉の使い方を見直すために、話し合う。

(計画的に話し合うために、司会の役割について捉える)・・・・・・・・・・・・・・・・ + 3. 0

<原因>・司会の役割が理解できていない。

・問題文が把握できていない。

⇒司会の役割を理解し、それぞれの立場から主張を整理し、話し合いの観点を明確にする。話し合いを通して、以下のことを意識して指導する。

- ・司会役には、発言内容をよく聞き、考えの中心となることを捉えることができるように指導する。さらに、複数の発言内容を聞き分け、それぞれの主張を分類、整理する等して適切な観点で設定できるよう指導する。
- ・学年の段階に応じ、様々な場面で児童が司会の経験を積むことができるように配慮することが大切である。

▲伝記を読み、自分の考えをまとめる。

(目的に応じて、複数の本や文章などを選んで読む) + 2. 4
 <原因>・「もっとくわしく知りたいこと」の内容が、抽象的なため、二つの文章に書かれていることを関連させることができなかつた。

⇒問題文を正確に読めるようにする。

→ 課題解決のために必要な情報(本問の場面の状況、具体的な課題の提示、課題を解くための条件)を整理し、その後の文章と関係づけて理解できるようにする力を付けることが必要である。そのために実際の授業の中で、複数の要素が書かれている文章について「何がどのように書かれているのか」を文毎に正しく読むことができる指導が必要である。

⇒書かれている内容を俯瞰して読めるようにする。

→ 文章全体から、書かれている内容を把握することができるようにすることが必要である。そのために、実際の授業の中でも、意味段落に見出しを付ける等の学習により、文章全体を俯瞰的に読み、「何が書かれているのか」を捉えることができる指導が必要である。

【小学校算数について】

≪問題ごとの状況 小学校算数≫ (カッコ内は設問番号) ○ . . . 全国平均よりも3ポイント以上上回った設問 ▲ . . . 全国平均よりも下回った設問 ⇒ . . . 授業改善の視点

○除数で表すことができる二つの数量の関係を理解している。 . (A 1 - 1) + 3. 9

▲小数の除法の意味について理解している。 (A 2) - 0. 6

⇒小数の乗法・除法の意味を理解し、演算決定ができるようにするためには、問題場面の数量関係を把握し、その関係を数直線に表す指導が大切である。数直線に表された数量やその関係について解釈しながら意味や立式を考える授業構成を行っていく。

○単位量当たりの大きさを求める除法の式と小の意味を理解している。
 (A 4 - 2) + 3. 8

○分度器を用いて、180度よりも大きい角の大きさを求めることができる。
 (A 5 - 2) + 5. 8

○示された表現方法を基に、空間の中にあるものの位置を表現することができる。
 (A 6) + 4. 6

▲円周率の意味について理解している。 (7 - 1) - 1. 0

⇒公式は知っているが、円周率の概念の理解が薄い。そのため、円周率は一定であり、

3. 14に近い数になることを見出す学習を授業に位置付けていく。

- 直径の長さを円周の長さの関係について理解している。・・・(A7-2) +6.6
- 円周率を求めることができる。・・・(A8) +6.1
- 折れ線グラフから変化の特徴を読み取ることができる。・・・(A9) +3.5
- 図形の構成要素や性質を基に、集まった角の大きさの和が 360° になっていることを記述できる。・・・(B1-2) +4.6
- 示された情報を解釈し、条件に合う時間を求めることができる。

・・・(B2-1) +3.6

▲棒グラフと帯グラフから読み取ることができることを、適切に判断することができる。

・・・(B3-2) -1.6

⇒2量を比較する際、差の見方と割合の見方がある。どちらがどのような時、妥当なのか検討する場面を授業で取り入れる。

【小学校理科について】

《問題ごとの状況 小学校理科》

- ・・・全国平均よりも3ポイント以上上回った設問
- ▲・・・全国平均よりも下回った設問
- ⇒・・・授業改善の視点

【小学校理科】

- 骨と骨のつなぎ目について、科学的な言葉や概念を理解している。・・・ +4.6
- 人の腕が曲がる仕組みを模型に適用できる。・・・ +5.6
- 土地の侵食について、予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して実験を構想できる。・・・ +3.1
- 物を水に溶かしても全体の重さは変わらないことについて、食塩を溶かして体積が増えた食塩水に適用できる。・・・ +4.8
- ▲堆積作用について、科学的な言葉や概念を理解している。・・・ -0.7
⇒科学的な言葉と言葉の概念(意味)を関係付けるように指導する。
「この実験結果では、どこの部分が『堆積』していると言えますか？」(概念から科学的な言葉へ)「堆積の意味は何ですか？」(科学的な言葉から概念へ)など、双方向に考える機会を設定する。
⇒繰り返し、意図的に科学的な言葉を使い、定着を図る。ある程度繰り返し使用しないと定着は難しい。
- ▲より妥当な考えをつくりだすために、複数の情報を関係付けながら、分析して考察できる。・・・ -2.9
⇒問題解決する際に、複数の情報を使わざるを得ない状況を意図的に設定する。
例えば、「数日後の天気の変化を予想する」というような複数の情報を使わなければ解決できない課題を設定する。そうすることで、アメダスの情報と雲画像の情報など複数の情報を関係付ける必然性が生まれる。

【中学校国語について】

《問題ごとの状況 中学校国語A》

○・・・全国平均よりも2ポイント以上上回った設問

▲・・・全国平均よりも2ポイント以上下回った設問

⇒・・・授業改善の視点

○【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

文脈に即して漢字を正しく書く

(8) (一) 2 「舞台のマクが上がる」)・・・+2. 9

○【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う

(8) (三) オ「折り合いを〔つける〕」)・・・+2. 5

(8) (三) カ「〔ひとえに〕母のおかげです」)・・・+3. 2

○【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

古典の文章と現代語訳とを対応させて内容を捉える

(8) (六) 1 「いはく」の意味を答える問題)・・・+2. 0

▲【意見文の下書きを推敲する】

書いた文章を読み返し、伝えたい内容が十分に表されているかを検討する

(4) (一) 一文を書き加える意図を答える問題)・・・-2. 2

⇒ 自分の考えが読み手に分かりやすく伝わるようにするためには、書いた文章を読み手の立場で読み返し、伝えたい事柄等が十分に書き表されているかどうかを検討するように指導することが大切である。例えば、書いた文章を読み返して、文や段落の接続関係が適切であるかや、どのような説明や具体例を加えたらよいかを検討するなどの学習活動が考えられる。その際、読み手がその文章を読む意図や目的を意識し、文章を修正することによってどのような効果が生まれるかなどを検討するように指導することも重要である。

▲【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

文脈に即して漢字を正しく書く

(8) (一) 1 「ひもでタバねる」)・・・-2. 0

⇒ 漢字の指導においては、字体、字形、音訓、意味や用法などの知識を習得し、文脈に即して漢字を読んだり書いたりすることができるように指導することが大切である。また、日常の学習や生活の中でも、必要に応じて辞書などを活用して漢字の意味や用法を確認し、漢字を正しく読んだり書いたりする態度と習慣を養うことが重要である。

▲【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

目的に応じて文の成分の順序や照応、構成を考えて適切な文を書く

(8) (四) 2 「心を打たれた」を文末に用いた一文を主語を明らかにして書く問題)・・・-3. 6

⇒ 文を書く際には、文の成分の順序や主語と述語の照応などを整え、伝えたいことが相

手に適切に伝わるように書くことができているかを常に吟味するように指導することが大切である。例えば、心の動きや、身の回りの様々な物事などについて具体的な内容を盛り込んだ文を書き、伝えたいことを適切に表現するための語順や語の照応について検討するなどの学習活動が考えられる。

▲【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

行書の基礎的な書き方を理解して書く

〔8〕(五) 作品(行書)への助言をする問題)・・・－5. 0

⇒ 中学校では、社会生活に役立つ書写の能力を養うため、楷書よりも速く書くことのできる行書の基礎的な書き方を身に付けさせる必要がある。その際、点や画の形が丸みを帯びる場合があること、点や画の方向及び止めや払いの形が変わる場合があること、点や画が連続したり省略されたりする場面があること、筆順が変わる場合があることなどが行書の特徴であることを踏まえて書くように指導することが大切である。また、字形の整え方、運筆の際の筆圧のかけ方、点画のつながりなどを身に付けさせるために、毛筆の活用に配慮する必要がある。さらに、どのようにすれば行書の特徴を生かした書き方ができるのかを考えたり、行書の使用がどのような場面で有効であるかを考えたりするような主体的な学習がなされるように配慮することも重要である。

《問題ごとの状況 中学校国語B》

○・・・全国平均よりも2ポイント以上上回った設問

▲・・・全国平均を下回った設問

⇒・・・授業改善の視点

○【資料を作成して発表する】

全体と部分との関係に注意して相手の反応を踏まえながら話す

〔2〕(三) 話の進め方として最も適切なものを答える問題)・・・＋4. 5

▲【資料を作成して発表する】

話の展開に注意して聞き、必要に応じて質問する

〔2〕(二) 発表に対して、級友の質問を踏まえて質問をする問題)・・・－0. 5

⇒ 説明や発表などを聞く際には、話の内容と自分の考えとを比較し、必要に応じて不明な部分や更に聞きたい事柄について質問するように指導することが引き続き大切である。また、話し手に対して、話の途中で聞き手に問いかけたり質問を促したりするなど、聞き手の反応やその場の状況に応じて適切な働きかけをするように指導することも効果的である。例えば、説明や発表で用いる資料を事前に読んで「何のために」、「どのような」質問をするかを具体的に考えたり、実際に説明や発表を聞いて質問する様子を動画で記録し、それを基に質問の内容やタイミングについて振り返ったりするなどの学習活動が考えられる。

【中学校数学について】

《問題ごとの状況 中学校数学》 (カッコ内は設問番号)

- ・・・全国平均よりも3ポイント以上上回った設問
- ▲・・・全国平均よりも1ポイント以上下回った設問
- ⇒・・・授業改善の視点

- ▲絶対値の意味を理解している。・・・ (A1-2) -2.0
⇒1年生の学習内容を忘れている可能性がある。系統的に指導するとともに、各学年で適宜振り返る内容を入れる。
- ▲指数を含む正の数と負の数の計算ができる。・・・ (A1-3) -1.7
⇒基礎的・基本的計算については、「数と計算」領域だけでなく、全領域で意識して使用する授業を行う
- ▲関係を表す式を、等式の性質を用いて目的に応じて変形することができる。
・・・ (A2-4) -2.2
⇒文字について解くとはどういうことなのか、意味を理解する授業にする。授業では実際に変形した式に具体的数値を入れて考察させる。
- 方程式を解く場面における等式の性質の使い方について理解している。
・・・ (A3-1) +3.2
- 着目する数量を見出し、連立二元一次方程式をつくることができる。
・・・ (A3-4) +3.5
- ▲回転した図形を書く。・・・ (A4-3) -1.7
⇒授業では作業だけで終わるのではなく、開店した図形の性質を見出す学習を行う。
- 2つの三角形が合同であるために必要な辺や角の相当関係について理解している。
・・・ (A7-1) +5.0
- 長方形やひし形が平行四辺形の特別な形であることを理解している。
・・・ (A7-2) +3.1
- 証明の必要性と意味を理解している。・・・ (A8) +3.1
- 最頻値は、資料の中で最も多く出てくる値であることを理解している。
・・・ (A14-1) +5.5
- 与えられた資料から中央値を求めることができる。・・・ (A14-2) +6.0

【中学校理科について】

《問題ごとの状況 中学校理科》

- ・・・全国平均よりも3ポイント以上上回った設問
- ▲・・・全国平均よりも1ポイント以上下回った設問
- ⇒・・・授業改善の視点

- 1つの要因を変えるとその他にも変わる可能性のある要因を指摘できる・・・+5.4
- 化学変化を表したモデルを検討して改善し、原子や分子のモデルで説明できる・・・+3.2
- 神経系の働きについての知識を身に付けている・・・+9.9

- 電流計は回路に直列に接続するという技能及び電流計の電気用図記号の知識を身に付けている . . . + 5.6
- オームの法則を使って、抵抗の値を求めることができる . . . + 3.1
- ▲濃度が異なる食塩水のうち、特定の質量パーセント濃度のものを指摘できる . . . - 3.9
 - ⇒質量パーセント濃度を計算で求められるようにするだけでなく、特定の質量パーセント濃度の水溶液を実際に作らせてみることで、質の高い技能の習得を図る。
- ▲風向の観測方法や記録の仕方に関する知識・技能を活用できる . . . - 1.6
 - ⇒気象データを時間的な視点を働かせて変化の規則性を捉えさせたり、気圧配置を空間的な視点を働かせて天気の様子を推測させたりする場を設定する。
- ▲太平洋高気圧（小笠原気団）の特徴についての知識を身に付けている . . . - 6.5
 - ⇒各季節における気象の特徴を想起させ、季節に影響を与えている気団の地理的環境を推測させるなど、実生活と結びつけて理解できるようにする。
- ▲ガスバーナーの空気の量を調節する場所を指摘できる . . . - 1.2
 - ⇒ガスバーナーの操作手順を習得するだけでなく、操作に伴う炎の様子に着目し、理由を考えさせることで操作と現象との関係を理解できるようにする。
- ▲炎の色と金網に付くススの量を調べる実験を計画する際に、「変えない条件」を指摘できる . . . - 2.7
 - ⇒量的・関係的な見方を働かせる授業では、実験計画を立てさせることで、条件制御の能力を活用できるようにする。
- ▲探究の過程を振り返り、新たな疑問をもち問題を見だし探究を深めようとしている . . . - 1.1
 - アルミニウムは水の温度変化に関係していることについての新たな問題を見いだすことができる
 - ⇒生徒自身が身近な事象から問いを見だし科学的に探究する過程を通して、課題を解決したり、新たな課題を発見したりする経験をたくさん積めるようにする。

【全体を通した今後の対応について】

指導主事による学校訪問や校長・教頭を対象としたマネジメント研修会等で調査結果を受けた指導改善について周知し、引き続き児童生徒の学力向上の取組を継続していく。

また、今年度から配付されたS-P表なども含め、各学校による同様の分析をもとに、各学校の児童生徒の実態に合わせた具体的取組が進むように支援していく。